

世代を超えたつながりを持つ場を作りたい

新子安地区社会福祉協議会(横浜市神奈川区)

横浜市神奈川区にある新子安地区は近年多くのマンションが建設され、高齢者の割合は高くもないものの山坂が多く、日常的な買い物先であった子安台市場や個人商店が閉店し、多くの買い物難民が生じています。新子安地区社協ではさまざまな関係団体と協力してこうした住民を救うための取り組みを始めています。

地区社協の中でも特に山坂の多い自治体を中心となり、月1回の買い物プロジェクトを進めています。町内会館や交流施設を利用し

て野菜や衣料品の販売を行う取り組みです。会場にはサロンも開き、買い物ついでに気軽に喫茶を飲んだりおしゃべりできる場を提供しています。販売する野菜を自ら吟味し調達するのは、南部町内会の森田会長。衣料品は区社協と連携して大口通商店街から協力をお願いしています。地域ケアプラザからも実施協力を得て、毎回野菜はほぼ完売。利用者からは「なかなか買い物に行けないから助かる」「サロンでおしゃべりするのが楽しい」「毎回必ず来ています」といった

声が多く聞かれ、大変好評を得ています。買い物難民への支援として始まった取り組みですが、孤立問題の解消にもつながっています。また、お知らせチラシを高齢者に限定せず配布することで、若い世代が子連れで買い物に来てくれ、世代を超えた地域交流の場となっています。

「環境変化に伴い、このプロジェクトも変化していかなければならない」と森田会長は語ります。今後どうしたらもっと男性住民から参加してもらえるか、次世代の担い手をどう育てていくか、課題もあります。これからのプロジェクトについて、会長はじめ、関係スタッフは未来を見えています。

「お惣菜を作って売ったらどうか」「近隣の人を誘ってきてほしいよね」とアイデアはつきません。将来的には、家から外出できない人のための宅配や地域のタクシー会社を利用した買い物ツアーなども考えていきたいとのこと。これからも世代を超えた地域交流の場を大切に育てていきます。

(地域福祉推進担当)

※本年度の県社会福祉大会にて優良地区社協として表彰されました。

区社協として表彰されました。



のほりを作成してプロジェクトを盛り上げる。安くて新鮮なのでたくさん購入される方が多く、レジ担当は大忙し。



新子安地区社協中川会長(中央)、買い物プロジェクトを指揮する南部町内会会長森田会長(左)、地域ケアプラザの天道さん。プロジェクトの様子を見ていると風通しの良い協力体制がみえてくる。下はサロンでの様子。温かいお茶がうれしい。

